

会 議 録

かわにし事業ディスカッション2014（第2回）

開催日時	平成26年9月28日（日） 午後2時40分から午後4時10分
開催場所	川西市役所 7階 大会議室
内容	市民公益活動団体支援事業の討論、まとめ
出席者	コーディネーター 清水 万由子
	メンバー （公募市民） 大塚 千恵子 岡田 忠純 小牧 満也 杉浦 一郎 藤本 美穂
	オブザーバー 石田行政経営室長
	市職員 船曳参画協働室長兼市民活動推進課長 清原市民活動推進課長補佐
事務局	総合政策部 行政経営室 経営改革課 （内線：2110、2112）

会議経過

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>前回、ディスカッションを行いました市民公益活動支援事業は、自治会を中心とした地域での活動になり、皆さんに自治会をめぐるさまざまな角度から一体どこに課題があるのか、課題の解決策についてもいろいろと議論いただきました。</p> <p>振り返りも兼ねて、整理しながら書き出してみたいと思います。まず事業ディスカッションの出発点として、市のほうからどういうところに課題を感じ、ここのテーマに挙げてきたかということですが、地域組織にはいろいろあり、コミュニティ協議会など、いろいろなテーマ別の組織があります。その1番の基礎になる自治会の加入率が低下している。そもそも参加する人が少なくなっていて、参加している人の中でも、高齢化が進んでリーダーとして引っ張り、活動を担えるような人が不足している。この両面から自治会活動の基盤というか、マンパワーというか、その部分が弱まっているということが課題になる。これを何とかしたいということだったかと思います。市民メンバーの皆さんから議論を言っていたことも踏まえて、その課題を掘り下げるといいますが、議論したわけですけども、自治会の役割というのは、災害が起きたあとに、自分が高齢になっているんな人のサポートが必要になったときに必要になる。それから、コミュニティ協議会の活動に人材という面で支援し、財政面で支援をして、さまざまな活動の下支えをしている。そういう役割を持って果たしていることが段々わかり、自治会はやっぱり必要というところで一定共通認識ができたと思います。</p> <p>また、私がやるべきだということももちろんですけど、自治会の役員をされていて、人とのつながりとか、コミュニケーションができ、そういうポジティブなつながりをふやすという面もあるということです。</p> <p>ただ、ここから課題になりますが、そのような人とのつながりとか、地域で何かするとき具体的に言えば仕事させられるみたい、役をやられるみたいなところもあり、家族の中だけで、あるいは気のあう人だけで楽しく過ごせればいいというふうを感じる。そういう都会的な感覚を持った住民も少なからずいるだろうということで、活動をあんまり積極的に参加しようとしなない人たちがいるからこういう人たちをどうするかというか、参加したくない人たちも含めて地域ですので、どう考えるかということなのです。</p> <p>それから、そもそも「自治会活動は、いいわ」と言う人もいる一方で、そういう活動があるなら自分も参加してみたい、何かできることがあればやりたいと思っているけど、情報がないとか、自分が住んでいるところにそもそも自治会はなく、参加の手がかりがないというか、自治会活動に参加したいけども参加できてない状況の方というのもあるということで、情報発信とかも課題というお話があったかと思います。大きく言えば自治会活動が必要だけれども、そう思わない人もいるし、参加する方法がないという人もいうということで、そのような課題をどう解決したらいいかということなのです。</p> <p>1つは課題の3つ目に対応するところと思いますが、情報共有とか、発信のツールがあればいいということで、もうこれは恐らく皆さんは市が、行政がそういった統一の共通のフォーマットを用意してくれたら、自治会でもそこに情報を打ち込めば自動的にホームページがアップされるとか、そういうような簡易な発信ツールを積むサイト、ポータルサイトみたいなものをつくってくれたらやりやすいじゃないかと、そういうようなことだったかなと思います。もちろんこの市がということですが、市がやらなくてもそういう NPO がやるとかということもあるかもしれませんが、まずそのご議論いただければと思います。</p> <p>それから、人材不足、担い手不足という課題がありましたので、どうしても小さな地</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>域、自治会規模の小さいところもありますので、そうなりとやっぱり若い人がいないところもあるということで、人材バンクのアイデアがありました。自治会の単位を超えて、全市的に知識がある人いますという感じで登録をしてもらい、ニーズがあるところに手伝いに行くとか、人材交流みたいなこともできたらいいなということでした。これも恐らく暗黙の前提として市が立ち上げたらいいじゃないかという、また商工会みたいなところも、そういうことをする主体としてはあり得るのかもしれませんが、そんな話題があったと思います。</p> <p>それから、いくつかいろんなご提案があったと思いますが、自治会長の集まり、市で「自治会会長会議」というのがあります。そこで、「おたくの自治会どんなふうにしていますの」ということを情報交流する。「そんなやり方があるのか、ええな」ということで活かしていく。「こんなことしたらどうですか」という意見であるとか、あるいは役員で自治会の会則で役員を1年でやめざるを得ない。そういう規則を持っている場合は、役員を複数年続けられるように会則を改正する。そんな意見もあったかと思ひます。</p> <p>主だったものとして、4つぐらいあったと思ひます。ここまでで大体、第1回目の議論の骨子だと思ひます。まずはこれでよかったかどうかということを確認していただきたいですけども、今日の議論の目標は討論、まとめということですので、3番の「課題解決の案」のところを充実させるというのが一体誰がそれをやるのか、「本当にこれやったら自治会活動って活発化するだろう」とかですね、「これを活発化させるためにも、活用するにはもっとほかの人がいろいろと協力しないといけない」とか、そんなことを考えていけたらいいなということと、最後にこの事業ディスカッションですけども、もちろん市の事業改善ということをして1つの目的ですが、こうして参加いただいて、一緒に議論しているの、ある意味市民の代表というのか、こういうところに来ていろいろと議論して、学んでいただいたことあると思ひます。やる気、モチベーションが出てきた面もあるかもしれないので、ご自身が地域にお家に帰られて、小さなことでも本当に小さなことでもいいと思ひます。何かできること、やってみたいこと、もちろん地域と言ってもサークル活動の場でもいいですし、どんな場面でもいいと思ひます。そんなことも最後に少しだけ考えるきっかけとしてお聞きできたらいいかなというふうに思っています。</p> <p>私のほうで勝手にまとめてしまったので、ちょっとここを強調したいとか、こういう内容もあったので、議論の遡上に上げたいということがあれば、ご指摘いただければと思ひます。担当課の方々からどうでしょうか。何かあれば教えてください。</p> <p>課題が出たということで、4点説明いただいた分ですけど、当然、情報発信とか、必要という感じをお聞きしています。ただ、自治会もそれぞれ工夫をされている部分もありますので、必ずしもそれだけが足りないということではないだろうと思ひますけども、一定いずれにしてもいろんな幅を広げていくというものの自治会に対する提供というのは、一定重要なことかなという思ひはしています。</p> <p>あとは、人材バンクは我々からすると、どこまで自治会とご協力でき、誰が人材バンクを発信し、誰が来るのかということも含めて、担い手不足の部分については、一定で何か解消しているものにつながっていけばいいかなという思ひはもちろん持っていますので、何か工夫ができればと思ひます。</p> <p>あと、自治会会長会議も現状の自治会会長自身が、基本的に自治会長と行政との情報共有を図ることを今まで目的にしています。正直自治会長間、特に自治会数が136自治会あり、それが全員集まってなかなか意見交換という場ができないですけども、いずれにしても何か自治会長といひますか、自治会同士で状況が図れる部分を何か考えて</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>いく必要もなくはないのかなという思いはしております。</p> <p>あと、4番目の役員の複数年というのは、行政が立ち入ることができないので、何とも言えませんけれども、複数年であることそのもののほうがより自治会が発展していくという意味で、活性化ということでは必要なのかもしれません。そこをどこまで自治会が思われるのかというところと難しいところですけど、現実に自治会、さらに広がりコミュニティという部分の問題もありますので、そういうことに関係も深めながら自治会として役員任期なんかは考えていただけるというのは確かに必要なことというふうには思っております。あまりたいしたこと言えませんが、感想としてそう思っています。</p> <p>今すぐイメージできるもの、そうじゃないものとあると思います。もし特に追加すべき議題とか、アイデアというのがなければ、ここはなんか何かあったらよさそうだなという担当課の方の感触もありましたし、前回も結構議論が出たところだと思うので、もう少し具体化というか、どのようなものだったらいいかとか、自治会のほうはどうそれを使うとか、市はどういう対応をしたらいいとか、そんなところにいきたいと思います。課題解決を考えると、やっぱりそれを本当に解決になるのかというところがきちんとかみあって、2番もかみ合っていないと、1番、2番とかかみ合っていないと、単なる思いつきみたいなふうになってしまいますので、これをやることによって、例えば煩わしいなと思っている人もうまく無理強いするというよりもうまく取り込むであるとか、そういう人にも情報がさりげなくいくようにとか、こういうところで何らかのアプローチができるとか、ここへは1番とか、アプローチできるかなと思いますけども、あるいはじゃあ楽しさみたいなものをもっと高めるような方向になるかどうかとか、ただそんなことを念頭に置きつつ、3番を具体化というか、詰めていきたいと思っております。第1回の議事録お持ちということで、事前に見ていただいた方もいらっしゃると思いますが、情報共有発信ツールのあたりで具体的にいろいろ案が出ていたかと思っております。議事録の7ページとか、8ページとかを読んでいただいた方は思い出しつついきたいと思っておりますが、まずは自治会のことホームページを作成して発信する。活動内容の発信とか、何かあったら相談ができるとか、そういったようなインターフェイスとしてホームページというツールがあったかと思っております。これについては更新するのが煩雑だとか、個人情報の扱いも難しいところがあるので、共通のフォーマットをつくる。そして何かポータルサイト、ここのイメージも私もちょっとあまり詳しくないので、わからないところもあるのですが、全市的なほかの自治会活動もわかるようなポータルサイトも一緒につくって、自治会間の情報交流も増やしていくみたいな、そんなイメージだったかと思っております。これはやっぱり市のほうでつくる、そういうようなイメージだったかと思っております。あるいはこういったもの本当にじゃあ自分の自治会で活用できるだろうかとか、自分が役員になったらこういうのがあったら本当に更新していきだろうかとか。</p>
メンバー	<p>前回のときも私はどちらかと言うと、否定的な話をしましたが、ホームページというのはつくってもあとのメンテナンスをどうするか、活用しないと意味がない。私個人としてはホームページもブログも持っています。ですけど、ここ何年もほったらかしになっています。手入れするほどに、どれだけの方が読んでいただいて、見ていただいているのかもわからないし、反響もそんなにないし、つついもうほったらかしになっています。ですから、あとのメンテナンスをきちんとして、どういう情報を発信していったら、誰を対象にしてという的確なターゲットをもとにつくらないと、ただ持ったらなんかなるかなと私もそういう思いでつくって持っている。たくさんありますから競合するのも大変ですし、そういう意味ではやはりよほどしっかりと人が中心に管理をして初めてうまく機能する。これは私がなまけものだからそう思うかもしれないです。だ</p>

発言者	発言内容等
	<p>から、私が所属している組織で、実は1つホームページをつくって、そこは根幹の部分をそのままにして、ブログで日々の情報を発信すると、この2本立てで活用をして使っています。だから、うまく使い方も含めて、自治会として今度は使うときにはどういう目的でどういうふうに、ターゲットの目的の人に対する情報発信をするかと、そういうところをしっかりとしないと、単に作成して、もうあくる日から陳腐化するというようなことではもったいないと思います。外部でつくるにしてもただではないと思うので、何万、何十万という費用がかかると思います。戦略を練って、市として1つのモデルをつくっていただいて、そこに何をを入れていくにしろ、結局使い勝手を含めた、使い手がどうそれを活用できるかどうかというのがポイントになると思います。</p>
<p>コーディネーター メンバー</p>	<p>設計というふうにおっしゃっていただきましたが、そうですね。</p> <p>ホームページの運営に関してなんですけれども、私も仕事をしている関係で、ホームページ、ブログ、フェイスブックを掲載する内容を分けて使っている。まず、自治会にそれを移行して考えるのならば、ホームページは基本的には一度上げたものはほぼ動かさない。「こういうこの地域をターゲットにした自治会です」とか、「年間にこういった行事をやっています」とか、基本ほとんど触らなくていい内容で、その中にコンテンツで「日々の情報発信はこちらです」という形で、ブログなり、フェイスブックのページで自治会のものを作り、そちらで細かい情報発信をしていく。それであれば普通にその専用のメールアドレスに文章を入れてメールを送れば、フェイスブック等であれば更新されるので、比較的更新しやすい、あと、今スマートフォンとか持っている方も多いので、その場で何か行事の際に、写真を撮って、そのまま「今日はこういう行事がありました」「こういうのを自治会の皆さんは参加されてました」というのを発信することも可能なので、比較的使い勝手がいいのではないかなと思います。そのホームページを、誰がどうやって見つけてくれるかということになるのですけれども、そこはちょっとひとつ市のホームページの中にいっぱい企業さんの協賛の載っているところと同じような形で、バナーをつくって何とか自治会、何とか自治会というバナーをクリックすると、そのホームページなり、フェイスブックのページなりに飛べるようにすると、認知度は上がるのではないかなと思います。</p>
<p>コーディネーター メンバー</p>	<p>ちょっと確認ですけども、フェイスブックはメールから投稿できる。</p> <p>設定のところ、メールから投稿するというのをすると、どのメールアドレスに送ったらそのページに投稿されるかというメールアドレスが出てくるので、それはご自身の携帯電話に登録をしておけば、そこにメールだけ送れば使えます。</p> <p>あと、ブログ、ホームページは、何人の方が見ているのか、誰に届いているのかわからないというところで、私も感じていますが、ブログってなかなかたくさんの方が見られているようなのですけれども、数字にして出てこない。その点、フェイスブックであれば何人の方にリーチしたかというのが常に表示をされるので、どれぐらいの人が見てくれているのだなというのはちょっとずつ感じながら運営していけるのではないかなと思います。</p>
<p>コーディネーター メンバー</p>	<p>最近、コミュニケーションツールというのはどんどん進化していきますので、そういうのも取り込めるところは取り込んでいく。</p> <p>今までの話の中で、正直ちょっと私の中で何が課題なのかすごくもやもやしていて、どこを今日まとめにお話するだろうと思っていただけですけども、自治会の加入率というか、担い手不足ということで、もう少し具体的に言うと、若者が自治会に入ってほしいということなのですか。</p>

発言者	発言内容等
市職員	若い方もそうでしょうし、実際に転入されても、なかなか入ってこれない方も多いというのと、もう1つはやめていかれる方も多く、高齢化の問題も含めて、若い人にも入っていただきたいという両方の課題です。
メンバー	ちょっとその辺が、どこに絞って考えた方がいいのかというのがすごくわかりづらいところがあり、話をしても必ず拡散するような議論になってしまう。どこをイメージして考えていったらいいのかというので、ホームページとか、フェイスブックの話というのは、若者には非常に効果的だと思いますし、私も不動産を調べる上で、そのエリアがどういうエリアなのかというのはすごく調べますが、自治会に関する情報ってほとんど出てこない。ホームページとか、ネットで調べても、そのエリア自体が何という自治会に属しているのかもあんまりわかりませんし、どれぐらいの規模なのかというのかわからない。最近ビジネスだったらそこがどういう会社かというのをホームページで調べるのはもう必須の作業になっていると思うので、若い人たちにはその自治会の概要がわかるような、情報ぐらいはフェイスブックなり、ホームページなり何でもいいのですけども、新しく入ってきた人の若者目線で、必要な情報をこれぐらいは出してくださいというのを、最低限の情報項目ぐらいを言って、どこの自治会もその最低限の情報だけは出るものがあるというのがあれば、若者には効果的だろうと思います。
コーディネーター	ホームページというふうに書いてしまったので、ちょっと若い人向けのようになってしまいますけども、ホームページに限らず、情報発信ツールということで、少し広げて考えてみましょう。やめていかれる方もいらっしゃるということなのですが、自治会に参加されていて「でも、もうちょっとしんどいわ」という感じでやめていかれる方というのは、何が理由というか、動機になるのでしょうか。
市職員	一般的には役です。本当は会長・副会長とか、そういうことだけではなくて、いわゆる組ですね、まあ班です。班チームの中の班長さんにすると、それも1つの役員です。そういうそのものがもう煩わしいというようなことで、時間がない、あるいは例えば高齢者であれば「高齢になったので、なかなか1件1件回るのはしんどいですよ」とか、多くは高齢化でない方も「役が回ってくるのだったらやりたくない」みたいなことがかなり多い。それとやっぱりそれ以外のことで、自治会に入っていないなくても「別に私は困らない。特段メリットもないし」みたいな感覚で入ってくればやっぱりやめられるという形は、現実的にはあるかと思っています。
コーディネーター	ちょっと課題のところをまとめすぎたかなという感じはするのですが、役を實際担えないとできない。それからメリットを感じられないというようなところなんです。今、言っていたのは、ここに対する解決策として、今得られた中で言えば人材バンクあたりということになるのですけれども、あるいは役員を複数年できるように少しかかわるかもしれませんが、それだけでいいのかなというところなんです。ちょっとここがあるのではないかというところなんですけれども、自治会の役員はとても大変なものなのですか。
メンバー	私の個人的な感想になりますが、楽しんでできる人は大変ではないですけども、やはり役をやるというのは、それなりの責任を伴います。私のところの場合でいくと、班というのが中に一桁7戸とか、8戸のところもあります、20何戸というのが1つの班というところもあります。大体、脱退する人は、次に自分が班長になるという人がやめる可能性というのは、数字的には取っていませんが、次の責任が10年なり、15年なりの戸数の中で、次にまた役割が回ってくる時に、その直前にやめるというケースはよく耳にします。班長になったからと言って、すべての人がこの中で、私のところは班があって、ブロックがあって、それからその上に役員がいるのですけれども、班長になったからと言ってすぐ役員なり、ブロック長になるわけでもないのですが、それが1つ

発言者	発言内容等
メンバー	<p>の引き金になって班長になる前に何になってもいやだからやめるといことのようにです。班長は回覧を単に回すというか、本当に一生活密着圏の中の働きをやっていただいて、それを取りまとめるのがブロック長であって、あと役員ですね、会長・副会長等16名が執行部会という形で、年間の行事なりを決定していつているというのが私のところの組織ですけれども、だから、大変と見るかどうかというのは、もうお一人お一人の個人的な感想と、それから能力と、それから性格も出るかもしれませんが、一概にはどうというのは言えないと思います。</p> <p>地域によって違うかもしれないのですが、私のところでは大変かということと言うならば「こうあったらいいのに」ということを提案された方がその役を担わないといけない傾向が強いというのは聞いたことがあります。つまり提案者が「じゃあ、やってください」と言われることが、みんなで作るのではなく、提案者が発信元なので「じゃあ、やってください」と言って、やめられた方というのは聞いたことがあります。なので、ホームページについても、何かよくしていきたいというときに、それをサポートする人材はやはり人材バンクということで考えたら、あったほうがホームページに関しては何か次へステップを踏みましょうというときには指導者なり、ちょっと特化している人が、手助けは何らかの形で必要ではないかなと思います。</p>
コーディネーター メンバー	<p>こういうものを活用する際にも、すごくサポートが必要。</p> <p>私も自治会の役をやっていて思うのは、役員が毎年私の会則にでも一応会計年度が任期で、再任は妨げないとはなっているのですが、よほど変えがたい人以外はやっぱり会計年度1年です。それでどんどんどん新陳代謝をしていくと。だけど、いわゆる委員会的なトップとは別に運営している実務的なノウハウも含めて継続するチームがあって、上は変わったけれども、実務的なことは不変でずっと流れていく。こういう仕組みがつくれれば私はもっと役員になったからといって負担を感じなくてもできる。それとチームは能力なり興味があって、「やってやろう」という人の集まりでやれば、比較的問題なくスムーズにいくと思います。トップの首だけ付け替えれば実務的なことはどんどんどん毎年同じように流れていくというふうにすれば、役員になるからやめようとか、班長になるということは、役員を選ぶわけです。みんな押し付けあって、あみだをして、抽選をして、ばばを引いた人が役員になるというような仕組みなのです。本当はやってほしい人、例えば過去に2、3年前も含めて班長から役員をして実績があって、能力も知識もある方をやってほしいというのが私なんかは思うのですが、それができない雰囲気になっているのかルールが引かれていてできないのです。もちろんそういうルールの中を敢えて「私、やります」とよほどそれこそ自信を持ってやらないと「やると言ったのに」と言って、また足引っ張られるというような思いが皆さんおありになるのか、結果やっぱり会則のところに行きあたってしまうのです。任期は会計年度、再任は妨げないとはなっていますけど、執行する部分と、実際に日常業務を行う部分に分化された組織ができればいいのではないかと思います。</p>
コーディネーター	<p>最初に何が課題なのかもやもやするということなところとかかかると思うのですが、自治会という組織すべてではなく、その「言い出しっぺだからやれ」とか、押しつけあうとか、やらせ合うみたいなそういうちょっと空気というのか、体質というのか、そういうのがあると思います。その辺がやっぱりどんどん人が抜け、若い人を引きつけられない根本的な原因なのかもしれないなというふうに思います。組織のあり方というのか、活動の根本でも根っこのところだと思いますけど、今、チームとしてやるというふうに言っていましたけども、何かそういう負担と言えれば負担なのですけれども、それを1人の人に押しつけるとか、誰かがやればいいのかということではなくて、何かも</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>うちちょっとみんなで共有できるような仕組みとか、何かそういうことってありませんか。</p> <p>私のところの自治会とコミュニティとの関係なんかを連想して説明するのですが、要は自治会というのは少なくとも会費をいただいてそれでもって運営するという責任がある。コミュニティは会費をもらってやるわけではなくて、どっちか言うと行政とのタイアップのもとで運営している組織なので、お金をもらっていることに対する責任というのは、コミュニティには一切ない。だからそういう意味では、来やすさというか、やっぱり月に200円とかいただいているということだけでも、総会になると、会員に対する責任にもなってくる。だからやっぱりお金をいただいて運営をしているということの負担、もらった分だけはきちり会員の人に返さないといけないという、そういう気持ちがあるのではないかなと思います。私はあんまりお金に対して感じないのですが、やっぱりそういうことを感じて責任を感じるというか、責任感の強い人はやっぱり負担になるのではないかなと思います。</p>
メンバー	<p>今日の最後に、自分が地域でできることが何かということを考えてくださいということで、前回から私も自治会活動、自分が今ほとんど参加してないのですが、真剣に参加するとしたらどうだろうということはかなり考えてみたのですが、やっぱり煩わしいことしか出てこない。一生懸命変えようと思えばするほど多分あつれきがたくさんあって生活しづらくなるだろうと。一方で、お金は払わないといけないと、「何か、それどうなん」みたいなことがあって、結論としてやっぱり浅くつきあうみたいな、何か起こったときとか、必要があればそのときに気が向いたらかわるというようなスタンスにどうしてもなってしまうのかなというので、やっぱりここであまりそう強いことも言えないという思いながらしていました。例えばフェイスブックとか、ホームページ見るだけとか、フェイスブックでとりあえずフォローというか、情報だけもらって、「こういうことやっている」とか、言うのだけもらって、「これじゃあ参加しようかな」というときに、顔を出すぐらい、というのを許していただけるであつたらだつたらそれぐらいはいいなという。</p>
コーディネーター 市職員	<p>勇気あるご発言ありがとうございます。そこは本音だと思います。</p> <p>逆にそういう思いを持って活動される方はたくさんおられるかもしれないのですが、それでいいのだと思います。ところがそれを越えて今度は関係ないからやめてしまおうという感覚になってしまうところが自治会の加入率を下げていっている傾向だと思います。だから今までは意外とそういう部分で、普段別に何をするわけじゃないけど「自治会には入っている」みたいなことがあたり前のようにあって8割、9割の時代になるわけです。それがどんどんどんどん、もちろん高齢化の問題が大きい部分もあるのだと思うのですが、今度は積極的にかかわりたくないみたいな形を表現するみたいなところがあり、もちろん自ら情報を求めに行かれないので、自治会が何をしゃべっているかも知らないから入らないということも多分おられるだろうとは思いますが。その部分で、やっぱりまずはやめさせないというのですか、入っていることだけでいいのですよ、何かをしてくださいということではなくて、できる時期がきたらしてほしいけれども、今、別にやめないでください。でも、それはやっぱり地域のつながりとして必要な会ですよということをどれだけ地域の皆さんにわかっていただけて、それを自治会が発信していることに対して、実際に入っておられない方もそれに感じて、「やっぱり入らないとだめかな」みたいなふうになっていただきたいというのが市の願いでもあれば、自治会もそう思います。だから、特にホームページの話も出ましたけれども、自治会によっても当然大きな自治会で、既にホームページを持っておられるところもあって、当然そういうところは市のホームページを通じて見られるようにはすでに</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>なっていますけれども、関心がある方という部分が少ないというのもあるのでしょうかし、すべての自治会がなかなかホームページまでつくる力を持っておられないというのもあります。いずれにしてもそれがいわゆる自治会に入っておられない方、それをどれだけ見て「やっぱり自治会活動を頑張らないと」、「入るぐらいは入らないといけない」というふうに、思っただけのことのできればなというのがちょっと強い気持ちです。</p> <p>いろんな感覚とか、モチベーションとか、状況の方がいらっしゃるというのが前提で、やっぱり担い手というか、自治会の活動を実質的に担っていける人、そういう機会を増やしていかないといけないということで、情報共有という話が出たと思うのですが、ただ、ちょっとピラミッドみたいに書きましたが、「一応、会員にはなっているけれども、役はやりたくないな。できれば抜きたいな」と思っている人たちが、どういう自治会であれば、じゃあここへもうちょっとアクティブな人になれるかとか、まあ絶対いやというわけじゃないのだけど何となく嫌、避けたい。でもいろいろ話を聞けば地域の活動って大事だなと思ひ、もし条件が揃えば参加してもいいかなと思う人たちがもう少し上に上がってくれるかとか、「もう嫌だ、絶対、嫌」参加しないと言う人たちも何かもうちょっと情報に触れる機会が増えるようにするかとかいう、そういう階層があると思います。</p>
メンバー	<p>まず、基本的に、自治会の役割という意味において、主にやっぱり災害とか、個人の力でなしえないことを組織として何かをする。そういう意味において、例えば今回の水害とか、そういうときにお互いに助けあい、自治会として非常に役割というのが発揮できるのではないかと思います。幸いというか、自治会にとっては幸いじゃないのですが、雨が降ってもよほど大きな地震でもない限り、その隣、近所に助けを求めないといけないということがない。ゴミは自治会に入らなくても収集できる。ですから、そういう意味からすると、自治会員としては、お金は取られるけど、何の頼りにもならないという思いをお持ちの方が結構おられるのです。市の施策の中で、自治会の加入率を上げるために、一地域、一自治会について最高5万円をあげようと言う。去年の時点ではそういう手続きはしてなかったようですが、今年は私が役になって、いただけるのであればやろうということで、「歩け歩け運動」というのをやっています。未加入者が約700件弱なのですが、そこも全部1件残らず回覧を渡して勧誘したのです。結果的には今とあんまり芳しくありません。「歩け歩け運動」で何がメリットかということ、1つは万歩計を差し上げるという物理的なものをあげて、もう1つは健康になります。お互いに横の連携を図る目的で、全家庭に配ったのですが、万歩計は185名ほどの申込みがあって、予算では150だったので、150だけ差し上げて、あとの残りはお詫びのはがきを差し出しました。来年1月までをひとつの期間としてやっているのですが、その成果は来年の1月以降になります。健康という意味では目に見えないので、万歩計をして歩きますと、顔見知りになるというのがちょっと増えました。私は何年か前に歩き出し、万歩計を下げても歩いています。だからそういうメリットというのが目に見えれば、何ですが、それ以外はさっき言ったように、災害もない、自治会に頼らないといけないこともないというので、なんぼ旗振っても今の時点では答えがない。実はこれも私ごとで恐縮ですが、私が春に自治会の副会長をやるとき、自分としてはこういうことをしたいというか、あってほしいという「魅力ある北陵自治会活動について」というのを自分でまとめて、どれだけそれが半年間でできたかということ、あんまりできてないのですが、こういうのをつくって一応役員としての共通認識のもとで1年間やりましようとしたのですが、まだ成果はこれから出るという感じです。作り話で終わるかもしれません。</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>メリットを知らせるといふところの情報もホームページに書かずに、情報の共有の発信といふのにちょっと書き直しましたけれども、情報を発信することの目的も1つだと思います。ホームページに自治会でこういうことをやっていますという基本情報を書くというのがあります。フェイスブックで自治会はこんなことしましたとか、こんなことしていますといふふうにリアルタイムで発信していくと、「そんなことも行っている」といふふうに知ってもらえたら自治会の意義といふのもわかってもらえるかもしれませんし、1つ重要なことだと思います。</p> <p>もう1つ、時間もそんな余裕があるわけではないので、情報の共有発信といふのは、担い手になるかもしれない人をつかまえていくという方向だと思います。また、参加している人たちが本当に楽しくとか、生活を犠牲にしないぐらいの重荷に感じないようにとか、役をやりたいがために抜けるということ避けるような自治会の運営のあり方を変えていく、自治会ごとに違うと思うので、一口には言えないですけど、本当にいい自治会の運営といふのはどういうものかといふことをちょっと考えていく必要があると思います。</p>
メンバー	<p>自治会は、地域住民が自分たちの手で地域を守っていくといふところになる。ここからの話はよしあしもあると思いますし、私もいいか悪いかどうかはちょっと判断がつかないところにはなるのですが、先ほど話があったように、会員を増やす、やめる人をやめないように食い止めるといふところだけにフォーカスを置いて運営を考えていくと、パレット川西はNPO法人が事業委託という形でされている。そういったことを専門にされているNPOの手を借りて、それこそ役員とか、そういうことを地域から班長レベルぐらいまでの連絡網を回すところまでNPOの人がやるといふのはなかなか難しいと思うので、そこのところまでは持ってきてくれるといふような、そういったところに頼らざるを得なくなる。でも、そうなるちょっと自治会といふもののあり方ではなくなってくるんじゃないかなといふのは私も思います。ただ、そこに関して、私もそうですけども、役員をしなくてもよくて、月々の自治会費が多少上がったとしても、それこそNPOで、いろんなところから助成金とかをもらってきて、月に200円が1,000円に変わったとしても、「何かバス旅行みたいなのを地域住民で行きましょう」「自治会で行きましょう」と参加をすれば、それで元取れるなと思う方が増えれば、自治会員の数だけで話をみると食い止め、参加者の増やすといふことは可能なのかなと思います。</p>
コーディネーター メンバー	<p>正しく理解してなかったのかもしれないですけど、パレットといふのは、男女参画センターが、市から事業委託を受けて、NPOが運営しているという形で、最近ホールとかも、市が一応持っているんですけど、事業の内容自体はNPO法人とかが受託を受けてやっているという形です。自治会もそういうことを得意とするNPO法人に運営自体を委託にかける。</p>
コーディネーター メンバー	<p>そういう選択肢もあるといふぐらいですか。</p> <p>自治会のそもそもの根幹がちょっと変わってしまうので、どうかとは思いますが、そういう道も選ばざるを得ない現状といえますが、今の風潮といふのもあるのではないのかと思います。</p>
コーディネーター メンバー	<p>なかなか難しいです。多分、3番で挙げた4つのことといふのは、1と3がもう情報の共有の発信で、3番はちょっとどっちですか、自治会の運営にかかわるところが人材とルールと思うんですけども、大きくこの2つの課題について何か少しでも具体的に取決めの方が見えたらいいとは思いますが。</p> <p>ちょっとお尋ねしたいのですが、川西市では、各自治会の会則と規約を集めているのでしょうか。例えば、私のところの会則にあつてよそにないとか、反対に私のところに</p>

発言者	発言内容等
	<p>なくてよそにあり非常に参考になるとか、もしくは任期が会計年度で再任は妨げないという、そういうのを参考にして、川西市の自治会の方向としてはこうだから、うちもこうしましょうというような根拠が、単に複数年というのは、それは個人的な理由で片付いてしまいそうな感じです。傾向としてはこういう方向にあって、川西でも大部分はこうですよというような1つの客観的な材料があれば、より変えたいなというような思いのところもちろんすべてをその参考にするわけじゃなくて、問題視したいところの1つの説得材料に使えるようなものがあればと。例えば、福祉では福祉委員会があり、目ぼしい10の社会福祉協議会の会則を持っている。それが我々の会のほうにも参考に見せていただいています。もし、自分になくてよそにいいのがある場合、参考にできればと思います。私は別に会員をふやす必要性は全然感じないです。役をしていますが、個人としては入りたくない人を無理やり入れたくはない。ですけど、社会的にはそういうわけにはいかないですし、我々の活動が周りにいい影響を及ぼすのであればできるだけ広げていきたいと思っています。よその会則と言うか、136の自治会会則を集めているのか。</p>
市職員	<p>残念ながら集めていません。コミュニティのほうは、総会でコミュニティの関係でやることがあるので、全地域ございますけど、自治会のほうは、特段我々のほうがそれを集めないといけないという、手伝ってくださいという要因がないものです。だから、ときどき情報を教えていただけるような、今おっしゃったようにはうちの違いなのですよというところがお聞きする範囲内では多い感じはしております。コミュニティは、情報交換をしながら、割とお互いがどうこうというのはよくご存知ですけども、なかなか自治会のほうはちょっと情報がなかなかないというのが現状です。ただ、難しいところは、言い切ってしまうのはだめですけど、話をする限り、「よそがやってるな」みたいなことを思われるところもあれば、「なかなかうちはそんなこと絶対できない」みたいな、割と実情的なものも含めて言われるところもありますので、難しいところはあります。</p>
コーディネーター	<p>さきほど、ご提案もあったのですが、ある種の専門家や、組織運営についている委託までいくのか、アドバイスをするぐらいなのか、そういうところのソースを活用するというのでしょうか。</p>
市職員	<p>NPO自身が、難しいところもありますけれども、部分的に地域活動を補っていただく形の中でサポートいただくものはあるのだらうと思います。自治会運営を委託にかけしていくということは、先ほどの意見でも懸念されている事もありますけれども、ちょっと一脱する部分もあると思います。そういう部分もあって、福利厚生団体ではありませんので、あくまでも地域としてのつながりを求めた組織になります。だから、運営という専門的な部分で何か企画立案みたいなことが常にあるとあって、「そういうのをちょうどいいよね」というふうな部分というのは、活用の部分でゼロではないかもしれません。例えば、班長的なことも含めて、すべてが本当に賄えるのかということになると、より何か違う組織みたいな形になっていく部分もありますので、やっぱり地域の皆さんが発意でつくっていますよという活動である自治会の重要性みたいなものがより薄れていく可能性もあるような気はします。</p>
オブザーバー	<p>少し補足しますと、私の個人的な見解も含めて、恐らくNPOに外部委託をしていくというのは、地域の方々がどういったニーズを自治会に対してお持ちなのかに一重にかかってくると思います。自治会というのが、Webであるとか、専門的なものを一部外部委託して、効率性というのを求めようということであれば、委託というのも当然いいでしょう。ただ、そうなるとその分が自治会費に跳ね返ってきて、今まで500円の会費が外部委託することにより、少し200円来月から割増していただきますというよう</p>

発言者	発言内容等
	<p>な、恐らくこれは自治体のつくりと似ています。昔は総出で、道をつくるのも「道がほしい」というような形でつくっていたのを、「少し道もたくさんいる」「広い道がある」「それもコンクリートがある」ということになれば、当然、業者のほうに委託する。また、いろんなお住まいの方々のニーズが増えればそれに対応するスキルを持った業者を入れていくというような、多分、自治体で考えれば、そのまちのお住まいの方々がどういったことを求めていくかによってそれぞれ運営も変わってくるのであろうなというような感をちょっと受けているのです。ただ、市から見た課題のところには担い手不足、これは高齢化に伴って避けようのない事実です。今、私も地域の中に入らしていただいたときに、本当に今の役員の方が頑張っていて、以前10年前にお伺いしたときにいらっしゃった方が、10年後来たらまだその役をやっていただいている、「久しぶりです。」と言うふうに、その場ですごく話が弾むのですけれど、大変だろうなというようなことを持ちました。ですから、担い手不足を解消していく1つの手法として地域で賄えるものは地域で賄っていくけど、それ以外のものはNPOであるとか、場合によったら業者というようなところも入れて、身軽になった分、自分たちでつくっていかなければならない部分は、しっかりと自分たちでやっていくというそんなものが必要なのかなというふうに思います。</p>
コーディネーター	<p>なかなか難しいですけども、私の個人的な意見になってしまうかもしれないですけど、今みたいな専門的な人材バンクを含めて、専門的な人の力を借りるとか、外部の力を借りるということも1つの選択肢だと思えます。その前に何か自己点検みたいなことを必要じゃないのですか。何か市から言われてやっているのもあるのかもしれないですが、でもやっぱり自分たちのための組織ですし、そのやり方も「こうなさい」ということではないと思うのです。自分たちがどういうニーズを持っているのかということも外から言われるよりも自分たちで考えるということがやっぱり基本にあるべきだと思います。例えばいきなり今ちょっと苦しいなと思っている自治会の人たちがいきなりNPOに委託しますと言うと、ちょっとそれは大変だと思うので、まずは市のほうで自治会に点検授業みたいなことをしますと、手を挙げてもらってちょっと見直したいと思っている役員さんとかが応募してもらったら、その後、いろんな人からアドバイスを受けられますとか、何かそういうちょっと市の資源を使ってワークショップみたいなことをやりますとか、何かちょっとモデル的に、例えば、自治会の活動、自分たちでよくしていけるための何かフレームみたいなものであるとか、その中に、多分、情報の共有発信というところも入ってくると思います。1つのやり方とか、選択肢としてそんなやっぱり原点というのは、自分たちで、自治なので、考えてやるということではないのかと思います。</p>
メンバー	<p>役員と世話をする立場に立ったときの業務負担を軽減するという、改革と言えるほどかどうかわかりません。今回、私のところの自治会では、会員にアンケートを出して、今の班構成とか、ブロック構成とか、そういうものがいいのかどうか。それからあわせて何かご意見がというようなことで、一応とりあえずは平準化しよう、先ほど報告したように、班が7、8戸数で1班のところもあれば、20何軒で1班のところとか、ちょっと昔の区分けをそのままずっときているので、アンバランスなところがある。それをできるだけ平準化しようということで、班の見直しをまずやろうということで、先日、アンケートを各戸に配布したところなのです。集約してどういう形になるのかちょっとわかりませんが、そういうできることからやっぱりそれこそ自治会ですから、我々が自分たちの組織として会費をいただいて運営をしている。だから、できる範囲のことの中で改革をしていこうというのが、今回のアンケートになります。ですから、自</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>分の実力なりの伴わない、法律でこうしなさいと言われたのならこれはもうやむを得ないのでせんとはいけませんけど、NPOを使ってどうのこうのと言うところは、今のところ全く考えていません。</p> <p>だから、自分たちで少しずつでも改革を進めていけるといいうところはいいと思うのです。でもそれを待っていてはなかなか動けない自治会もあるというのも現実だと思うので、そういうところを応援できるところは応援しつつ、でもできないけど何とかしなきゃなと思うところにはちょっとショック療法じゃないですけども、すべて一斉にということではできなくても、改革のきっかけをつくるというのはできないのかなと思います。</p>
メンバー	<p>やはり自治会という組織になると、方向性と言うか、みんなの目的が一致していないとなかなかまとまった動きというのはできないと思うのです。今は普通に生活する上で、みんなはいろんな目標があって、これができたらいいというのが様々だと思うので、地域ということだけでつながれているところはいいと思うのですが、やはり先ほど先生が、今ショック療法とおっしゃっていましたが、何か事故とか、事件とか、災害が起こったとかということで、みんながこれをじゃあ改善しようというようなことです。一致する方向というのがあればよく、今から起こってからだったら遅いということあると思うので、もしかしたらその種というか、芽が今もう既に地域で起こっているかもしれないというようなことが、私自身、今住んでいるところでそれ知らないかもしれないですし、知っていてもほったらかしにしているかもしれないです。そういうのがわかれば、それがきっかけになって、方向性というのは一致してくるということはあるのかなと思います。例えば、空き家とか、ゴミ屋敷があって、本当に隣に住んでいる人はすごく嫌だと思います。随分離れたところからしたら、全然いいやという感じがあり、それがどンドンどンドン増えてくると、やっぱり地域全体で対応しないといけないみたいなこととかにもなったりすると、やはりそこも情報という意味で、お互い歩み寄りだと思うので、あったらいいのかなというようには思います。</p>
コーディネーター	<p>地域分権の中で、自治会活動だけでなく、ほかの活動と連携取りながらやることだと思うのですが、何か地域の現実的な課題を例題として、取り上げて、それについて自分たちの自治会活動としてどんなことができるのかとか、そのためには自治会はどういうあり方じゃないといけないのかとか、そんなことを何かちゃんと話し合うというか、そういうことを考える機会が必要な感じもします。そういうことをできればいろんな形で裾野を広げるという意味で、情報発信していくと、回覧板ももちろんそうだし、フェイスブックとか、ブログとかいうような形で発信できる体制を希望するところには少なくとも整えるという感じがなと思います。</p>
メンバー	<p>私もこの間のディスカッションが終わって家に帰ってから自治会のホームページの存在を知りました。自分たちの世代もそうですけど、もしホームページの必要性があまりわからないというのがありますし、あったとしてもそこから何を得たいのかというのあまりぱっと今は思いつかないので、何が欲しているのかという、さっきニーズというお話がありましたけど、まずホームページ云々という前に、自己点検というのは、すごく必要だなと聞いていて思いました。</p>
コーディネーター	<p>こういうことでもある程度、共通了解としてあるというところは、それをいかにして多くの人にやはりメリットとして感じられるように発信していくかということだと思います。できれば若い人にも情報発信に参加してもらえ。フェイスブックなんかというのはそういう仕組みだと思うので、自治会のことにかかわらず、地域のこと、こんなことがあったとか、こんなところがあるとか、いいところ写真を撮って送るとか、何かそんなことでも参加型の地域情報の交流みたいなことができると思います。だからそうい</p>

発言者	発言内容等
オブザーバー	<p>うことをツールとしてぜひ取り入れていこうというところは取り入れていけるようなサポートだと思いますし、まだそこまでちょっといいないとか、自己点検というか、地域の状況がちょっとまだしっかり共有できていないというところには外からあっちのほうからちょっとてこ入れするみたいなこともあるのではないかと思います。</p> <p>市から見た課題のところ、加入率の低下、自治会加入率を上げていこうというのが1つあると思うのですが、これはもうあくまでも結果であって、担い手というと、どうも役員だけのように思います。その担い手、役員も1人の会員であって、もともとそういうお世話をされていない方々が何年かして、お世話をする役割のほうに変わっただけであるので、要はやっぱりこういう人が集まるような機会なり、場所なり、そういったものを増やしていくというのがやっぱりそれは担い手の確保でもあり、加入率という1つの指標ではあるのですけれど、それが最終的には上がるというようなことにはつながっていくと思います。そうなると、どういったことを自治会も含めて、そこに住んでいる人たちが集まる場をどう持っていかにかかっていると、それは前回にもありましたように、あまり自分のプライバシーにも介入はされたくないけど、でも適度に距離を保てるのであれば自分もその集まりの一員としてはいいよという方もいる。先ほど災害とかのリスクのときに、やはりその情報が欲しいというような、多分そういう要求になると思う。実は、私がある地域、これはマンションですけど、マンションの管理組合の方に話を聞く機会があり、そのマンションは管理組合としてあるけど、隣接している地域の自治会にまだ入っていない。いろいろ管理組合に、「隣接する自治会に入られる気はありますか」というようなところをお聞きすると、マンションとしては何不自由もなく管理組合で賄っている。でも唯一、安全の情報があまり入ってこない。マンションの中だけの話なので、その点、自治会は行政とか、警察とか、いろんなところから情報が入ってくるし、何か災害があったときも手立てというのも考えている。災害時要援護者も含めて、そういった安全情報はやはり管理組合もそれがいただけるのであれば自治会に加入することもやぶさかやないというような感想を漏らされたこともありました。例えば、集まるきっかけの1つとしてみんなでこの地域に集うものが安全を確保するために話し合いましょうというようなそういった集まりでもいいですし、まだ安全性はぴんときないけど、災害は忘れたころにやってくると言われるように、なかなか身近には考えてないけど、今、抱えている子育てについて、このマンションだけでなく、地域で少し考える機会があればというようなそういった集まりの仕方をその地域でどれだけ数として持っていける。そこに欲を言えば、割とラフな参加で「あなたは1回来たから、2回目も来てください」と言うのではなしに、ここは出入り自由というようなところから始めていくのも手かなと。言いたいこととすれば、そこに何か集まられるようなものから始めるというのが最終的にこの自治会という1つの共同体を運営もするし、持続可能なものにしていくための1つのキーワードというようには思っています。</p>
コーディネーター	<p>自治会のためにということでもないですけども、自治会でないといけないこととか、自治会の活動としてできることみたいな、それで、かつ住民の方々がすごく必要とする。恐らくあるはずなので、そういったところで課題の確認と、自治会員としての活動のあり方というのを我々にさせるということ。</p>
メンバー	<p>アンケートを取るというのは、今回は自分たちでやれることとかに関してというか、地域ごとに自分たちのやれることもそうですし、求めていることも違います。ライフスタイルも、自治会そのものの問題とか、課題も違うと思うので、それを見直したらどういいう例えば解決案でいくつか出ている情報ツールは有効であるかどうかともわかると思います。「ああ、そういうところに人材が足りていないのだ」というところをリサーチして、</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>アンケートはものすごくいいと思います。先ほど136の自治会があって意見交換はちょっと難しいという話が最初のほうにあったと思うのですが、それに関しても自分たちの自治会の問題が、課題がはっきりとしていた場合、それが解決できている集団に情報をもらうとか、つまり厳選しないと意見交換は難しいと思います。136もあるので、厳選することができてそれぞれの目的とか、課題を自治会それぞれではっきりさせておけば、どの項目も有効なものじゃないかと思いました。</p> <p>やっぱり情報交流とかというのも、136みんなでやりましょうということではなくて、うまくやっているところとか、こんな課題を乗り越えたというようなところに。</p>
メンバー	<p>企業だったらよい事例がある企業に見学会に行ったりすることがあると思うのですが、それに近いものと思います。つまり136の自治会すべてが自分たちの役に立つ情報を持っているとは限らないので、ベストなところの情報を入手できるように、つまり厳選しないといけないということにはなるのですが、それを誰がやるかと言うと、また1つ問題にはなるかもしれません。</p>
メンバー	<p>私も全部をどうのこうのというような平均ではなく、やはり自分のところの規模にあったとか、地理的なこととか、そういうのを選びすぐった中で選択をして情報を得るといふそういう意味であって、全部を網羅してどうのこうのという平均をされた数字とか、そんなことは全然思っていない。それでアンケートというのは、私のところの必要性のものを、会員に聞いているのであってそれぞれよそでも参考になるかどうかということで、別の問題だと思います。</p>
コーディネーター	<p>そういうことをやってらっしゃるところがあるというだけでもそんなことをしているというので、学ぶところあると思います。</p> <p>時間が迫ってまいりましたので、なかなかこれはきれいな形ではまとまってないかもしれませんが、せっきく最後になりますので、今日と前回のディスカッションを振り返っての感想とか、意見とかでもいいですし、それにできればプラスアルファして、ご自身としてはどんなことが小さな1歩できそうかな、うちの地域だったらどうかというところもあわせて、お1人ずつご発言いただければと思うのですけれども。</p>
メンバー	<p>私は、知り合いがいるとか、自分なりに踏み切ることがあればぜひ参加してみたいなとは思いました。</p>
コーディネーター	<p>どんなことだったら、きっかけになりそうですか。</p>
メンバー	<p>友達が何か役をやっているとか、それでちょっと声を掛けられたとか、そういう入口です。自分からこう何か行ってやりますというのではないと思います。</p>
メンバー	<p>きっかけということで言うならば、やっぱり災害と安全、あと子育て世代にとっては子育てって大きなものなので、そのあたりというのは、やっぱりきっかけになるものだなというのは、今回強く感じました。</p>
メンバー	<p>私は、まだ何て言いますか、世帯を持っていない身分なので、どちらかと言うと親に入らされているという形で自治会には入っています。これから自立して自分で家庭を持つことがあっても自治会には入りたいと思っています。今、自分が地域でできることというのは、考えてみても、近所の方とかあいさつをしていく機会を増やしていこうかと。その小さいコミュニケーションの始まりはやっぱりあいさつから始まると思うので、小さいことからやっていければいいかなと考えています。</p>
コーディネーター	<p>あと、私はメリット、デメリットとかではなく、自治会は入らないといけないものと思っているので、祖父が自治会長をやっていたので、家庭環境もあつたとは思いますがどちらかと言うと、義務的なものだと考えています。</p>
コーディネーター	<p>世代をつないでいくという意味でも、親御さんが熱心であればお子さんもということ</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>になるわけです。</p> <p>私は、今回のディスカッションをとおして、1つ新しく学んだこともありまして、家が住んでいるところの中にある自治会というのがちょっと道路を挟んで離れたところが主体となっています。私の家もそうですけど、周りの住宅の方も誰も入っていないのが現状です。そこに入るの意味があるのかなというのはずっと思っていました。でも、今回のディスカッションと勉強会の中で、自分たちの地域から自治会を立ち上げていくことも可能であるということをお伺いできたので、ちょっとご近所と集まったときに、ゴミステーションの環境をよくするとかいうことで、自分たちで自治会を自分たちで作りあげていく道というのを、どこまで私ができるかわからないのですが、ちょっとやってみようと思いました。</p>
メンバー	<p>私は、自治会活動の中におりますので、例えば、来年の3月までの任期中に、自分が掲げた「魅力ある北陵自治会活動について」というテーマをできるだけ数多く遂行して、それこそ役員間で仲良く楽しい1年であったと言えるような活動をこれからも続けていきたいと思っています。</p>
コーディネーター	<p>続けられるには、どんなことが必要でしょうか。</p>
メンバー	<p>そのためには、私の年からいくと、しゃしゃり出てどうのじゃなく、皆さんの若い人たちの活動を支えていくという立場であるかなと思っています。</p>
コーディネーター	<p>なかなか議論が尽きないところで、時間切れになってしまいましたけれども、この問題というのはすごく奥が深いというか、恐らく本当に自治という大きなテーマのど真ん中だと思います。本当に地域にとって必要な、そこに住む人たちにとって必要な課題、それに自治会がどんな役割が果たせるのかということを経験で違うと思いますので、話をするであるとか、アンケートを取るということも含めて、地域の皆さんがどういうふう考えているのかということを考える場をつくるというのが1つ大きな柱というふうに思います。自治会がないところもあるということなので、そのあたりも自治会というためにはなかなか把握できないものもあるということは念頭に置いた上で、しかし、一斉に市全域で何かをするということも難しいと思いますので、やっぱり頑張っている自治会のグッドプラクティスというか、されていることをできるだけ学ぶということも情報共有の中でやっていくということから少しずつやっていくというあたりです。</p> <p>では、時間が過ぎてしまいましたので、市民公益活動支援事業の2回目のディスカッション、これで終了としたいと思います。どうもお疲れさまでございました。</p>